

多高通信

第175号 令和2年2月27日発行



宮城県多賀城高等学校

みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会

東日本大震災

メモリアル day 2019



1月25日、26日の2日間、令和元年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会「東日本大震災メモリアル day 2019」が行われました。本校災害科学科の1年生40名・2年生24名のほか、県内外の中学校・高校から計141名が参加しました。

1日目の研修では、宮城県教育委員会スポーツ健康課の駒木康伸課長から開会のご挨拶を頂いた後、名取市立みどり台中学校の

の平塚真一郎校長先生、東北大学災害科学国際研究所の佐藤健教授による講義が行われました。午後は被災地スタディツアーが行われ、東北大学災害科学国際研究所の柴山明寛准教授等をガイドにお迎えし、震災遺構の荒浜小学校と閉上小中学校の二手に分かれての見学をしました。その後、多賀城文化センターに会場を移し開講式が行われ、宮城県教育委員会の伊東昭代教育長からご挨拶を頂いた後、東北大学災害科学



今村先生の基調講演

国際研究所の今村文彦所長より、東日本大震災の教訓と最近の災害の特徴と備え」と題した基調講演をいただきました。その後、被災地スタディツアーの振り返りとして、本校で制作した災害シミュレーションゲーム(DIG)を使ったワークショップを実施しました。

2日目の研修では、全体会として各学校の学校紹介・防災に関する取組の発表の後、各学校の防災学習等の取組についてのポスターセッションを行いました。その後、閉講式で県内参加生徒に「防災ジュニアリーダー」の認定証が授与され、最後に、多賀城市内のまち歩きで研修を締めくくりました。

■1年7組 岡崎謙心(玉川中出身)

閉上小学校での防災対策は最新技術を用いた「災害に強い町」を実現するもので、非常に感心しました。また、今回の学習では他県の高校生たちが災害について様々な視点から考察しており、勉強になりました。八戸北高校の「自分の命を守り抜いてこそ、他の人の命を守る」という言葉が印象に残りました。

■2年7組 村上真綺(五城中出身)

2日目のポスターセッションでは、初めてあのような大人の方々の前で発表し、本当に緊張しました。また、トルコの皆さんとの交流では、異文化と触れ合いながら、私たちの文化と同じところと異なるところを見つけてことができました。同年代の高校生とも沢山話することができ、色々な考えに出会うことができました。

HOKKAIDO

サイエンスフェスティバル

2月1日、北海道旭川市公会堂及び旭川勤労者福祉会館で、HOKKAIDO サイエンスフェスティバルが行われました。北海道の高校10校、生徒約130名が参加する中、宮城県を代表して本校の災害科学科2年生、普通科2年の理系生徒、科学部員が今回特別に発表枠をいただき、参加しました。



トルコから視察に訪れた皆さんもポスターセッションに参加しました！

本校生徒が参加するポスター発表の部では、質疑応答が非常に活発に行われたこともあり、本校の生徒は大いに刺激を受け、自分自身の研究を深めるきっかけを掴むことができました。

科学部や災害科学科の生徒はこれまでも幾度か県外における研究発表会に参加していますが、普通科からの参加は今回が初めてのことで、参加した普通科生徒はもろもろのこと、選出されなかった他の普通科の生徒たちにとっても、研究に対する意欲を高めるきっかけとなる発表大会となりました。

■2年6組 土井遙加

(多賀城二中出身)

北海道で発表する機会を頂けると思ってもいなかったのでも嬉しかったし、何度実験を失敗しても最後まであきらめずに研究を続けてきて良かったなと思いました。実際に他県の発表を見て、私達の研究の甘さを痛感しましたが、私達の目指すレベルが上がったので成長につながったと思います。また、私達の課題研究に協力してくれた先生方のおかげで貴重な経験を得ることができたと思っていますので、感謝したいです。

古川黎明高校

黎明サイエンスフェスティバル

2月4日、県内のSSH校並びにSGH校など合計7校、海外の高校1校、近隣小学校3校の児童・生徒が参加した生徒研究発表会に、本校を代表して災害科学科1年生5名、普通科2年の文系生徒4名が参加しました。校外での口頭発表に普通科文系の生徒が参加したのは初めてです。

午前中の口頭発表の部では、ペニーランドを有名にしたい！というユニークな提言・発表を行いました。また、午後に行われたポスター発表の部では、多くの参観者を前に発表し、研究に対する質問やアドバイスを頂くことで、自分たちの研究に対する改善点を見出しながら、プレゼンテーションスキルや科学的探究心を向上させていたようでした。



■2年2組 合田野乃花

(塩竈一中出身)

私たちが発表会に参加するにあたって、聞く方々の視線を意識しながら口頭発表やポスター発表の準備を進めてきました。そして実際に参加したこと、私たちの発想には無かった意見や案をいただき、課題研究は沢山の方々の視点から見たり考えたりすることで、より深みのある研究をすることができると分かりました。この経験を生かし、研究ではもちろんですが、いろいろな物事に対して沢山の視点から向き合っていくと思えました。

また、他の人の発表では、聞く人々を引きつけるために、クイズ形式や問いかけなどの工夫も見られ、発表する側も聞く側も課題や問題に対して向き合っていました。このような活動をもっと広げていけば、社会問題や環境問題に対して私たちのような若い世代であっても解決のために取り組んでいけるのではないかと考えました。

美術部

宮城県高等学校美術展覧会

優秀賞・全国総文祭出展!



1月22日からの5日間、第72回宮城県高等学校美術展覧会が開催されました。美術部員6名の作品を出展しました。2年生の島田佳世子さんの作品「夢の名残」が優秀賞を受賞し、第44回全国総合文化祭宮城県代表作品に選ばれました。全国への切符を手に入れたことを、部員一同大変喜んでいきます。

■2年2組 島田佳世子(多賀城中出身)

なかなか構想が思い浮かばず、1ヶ月という短い時間での制作でしたが、何とか形にすることができたので、よかったです。まさか受賞できるとは思わなかったので、受賞の知らせを聞いてとても驚きました。7月の総文祭に向けて、さらによい作品になるように手直しを続けていきます。

